

1. 校務DX計画

	現状分析・課題	解決策・想定スケジュール				
		令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
学校における業務のデジタル化	保護者との欠席・遅刻・早退連絡を完全デジタル化している学校は3校（100%）、クラウドを活用した校務の効率化を一部の校務で取り組んでいる学校は3校である。	デジタル化の事例収集、活用方法検討	県の新システムによる連絡システムの導入・運用により欠席連絡の完全デジタル化、保護者及び児童生徒への連絡のペーパーレス化を目指す。			
学校設置者における業務のデジタル化	教育に関わる公文書のデジタル化に関する規程を定めていない。	校務事務の在り方検討WG	既存規則・規程等の整理 業務のデジタル化に向けて必要な規則・規程の整理		業務のデジタル化に関する規則・規程の改正及び制定	
次世代の校務デジタル化に向けた環境整備	ネットワーク統合と汎用のクラウドツールの活用を前提とした、パブリッククラウド上で運用できる次世代型校務支援システムの具体的な導入時期を設定している。	市町村システムとの統合を含めた県の新システム検討・設計	県の新システム導入・運用 校務用ネットワークと学習用ネットワークの早期統合を目指す			
生成AIの校務での活用	生成AIを校務で活用できていない。	生成AIについての事例収集、活用方法検討	校務効率化を目的とした生成AI研修の実施	生成AIを活用した方法を教職員等と情報共有		
クラウド環境を活用した校務DXの推進	教職員が校務用の端末を校外においてクラウドベースで使用できる環境を整えていない。	次期ネットワークの在り方検討	県の新システム導入・運用によりロケーションフリーの環境を目指す			
Fax・押印の原則廃止、ペーパーレス化、不必要な手入力作業の一掃	Faxを使用していない学校、保護者・外部とのやりとりで押印・署名がない学校、職員会議等の資料のペーパーレス化を実施している学校、いずれも実施できていない。	事例収集と解決策の検討	FAX・押印の原則廃止 県の新システム導入による職員会議等の資料のペーパーレス化を推進 問題点・課題の抽出			

2. 期待される効果

校務で利用する各種システムの活用により校務の効率化が進み、教育データを活用した児童生徒への指導や支援が充実する。 ①統合型校務支援システムなど、校務で利用する各種システムの活用により、校務が効率化され、教員の校務事務が最適化している。 ②教員は、校務データや学習データ等の効率的・効果的な活用により、個々の児童生徒にきめ細かな指導や支援を行っている。
--